研究論文

研究論文のテンプレートMS明朝16ポイントボールド
－副題MS明朝14ポイントボールド－

Template for Human Linguistics Review (16pt):
Times New Roman (14pt)

言語 花子[1)]　人間 太郎[2)]
Hanako GENGO [1)]　Taro NINGEN [2)]

要旨

要旨は標準のMS明朝11ポイントで、左右を全角3文字インデントしてください。論文のテーマ、方法、結論などがわかるように4～5行程度で簡潔にまとめてください。「要旨」、「キーワード」などの文字はMSゴシック14ポイントです。

キーワード

言語、人間、社会、文化、コミュニケーション、MS明朝11ポイント
Language, Human, Society, Culture, Communication, Times New Roman 11pt

1. セクション（MSゴシック12ポイント）

セクションタイトルはMSゴシック、本文は標準のMS明朝11ポイントとしてください。本文はMS明朝11ポイント全角、ただし本文中のアルファベットは、そこだけ半角（Times New Roman）とします。Brown & Levinson (1987) などのようになります。

日本語の語彙であっても、数字は「8月の会には25名が参加した」などのように、半角にします。全角数字だと「８月、２５名」となります。次の例で比較し、確認してください。（８　８　２５　２５）和語読みの数詞（ひとり、ふたつ等）も、一貫性確保のため、半角数字で「1人」、「2つ」等の表記とします。句読点の表記は、原則として「、　。」とします。

2. セクションわけ

必要に応じ、セクション分けをしてください。セクションを分けるときは、前のセクションの本文と新しいセクションタイトルのあいだを1行あけます。セクション番号は半角数字とし、そのうしろにピリオド、半角1スペース、全角文字のセクションタイトルがつづきます。セクションの本文の書き出しは段落の最初と同様に、1文字インデントします。

段落分けは、空行を作らずふつうに改行して1文字インデントです。セクションを分ける場合は、セクションとセクションのあいだを1行あけてください。

[1)] 言語大学・言語学部（Email: gengo@hlc.ac.jp）
[2)] 人間大学・人間学部（Email: ningen@hlc.ac.jp）
〔December xx, xxxx 原稿受付〕〔March xx, xxxx 掲載決定〕

3. さらにセクション分け（必要なら）

3.1. サブセクション

必要に応じてサブセクションを設けてかまいません。セクションタイトルとサブセクションタイトルは同じフォント・サイズ（MSゴシック11ポイント）です。サブセクションの番号は、上記のようにします。あまり細かく分けすぎないように、わかりやすいサブセクション分けにしてください。

3.2. 引用

必要ならば引用を行います (Goffman, 1981; Lyons, 1977; Vološinov, 1973) 。和文中にカッコを用いる場合、カッコ内が和文であれば、カッコを全角和文括弧にしてください（このように）。カッコ内が英数であれば、カッコは半角括弧とし、括弧の前後に半角1スペースあける (this is an example of how to use parentheses) ようにします。文末あるいは句読点の前であれば、半角括弧を閉じたあとスペースなしで句読点を置いてもかまいません (like this)。

文中での文献引用の仕方は、基本的にAPA Manualに従ってください。本文を数行引用する場合は、左を全角2文字分インデントし、本文とのあいだを前後1行あけてください。

> This is an example of a quotation. This is an example of a quotation. This is an example of a quotation. This is an example of a quotation. This is an example of a quotation. This is an example of a quotation. This is an example of a quotation. … This is an example of a quotation. This is an example of a quotation. This is an example of a quotation. This is an example of a quotation. (Halliday & Matthiessen, 2004, pp. 10-20)

引用の直後に段落分けをしない場合は左寄せで本文を続けます。引用の直後が新しい段落で始まる場合は、1文字分インデントします。

3.3. 図表

図表を入れる場合は、図・表ごとに連番をつけ、表は上側に、図は下側に図表番号とキャプションをつけてください。図表番号とキャプションはMSゴシック11ポイント、ボールドにし、左寄せにします。

表１．タイトル（MSゴシック12ポイント左寄せ）

あいうえお	Communication	
	Language	Human
かきくけこ	This is a pen.	I have a book.
たちつてと	How are you?	I’m fine.

表の体裁は著者の判断で調整してください。図や表と本文のあいだは1行（程度）あけます。図表中に細かい記述がある場合は、見やすいように、図表とそのタイトルを一段組で記載してください。

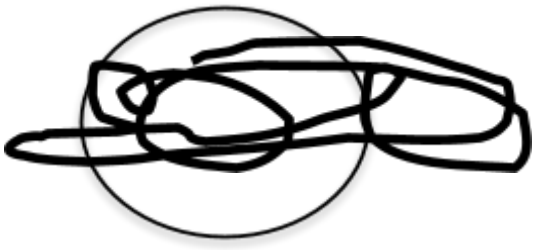


図1. タイトル（MSゴシック12ポイント左寄せ）

3.4. 例文

日本語・英語以外の言語で例文を提示する場合は、元の言語のデータの各語の下に英語でglossをつけ、和訳あるいは英訳を付してください。例文やデータには論文全体を通じて連番をつけます。例文と本文のあいだは1行あけてください。

(1) *Aree k'u ri kamiik, mal k'u tyoox*,

and-so the today so-thanks
'And so today, so thanks,'

(2) *Na yaca qu o Sireli*.
The name my Sireli.
'My name is Sireli.'

談話の書き起こしデータ等は、当該分野のデータ記述方式に準じて、著者の判断で行ってください。

3.5. 註

註は、脚註でなく文末註とし、本文のあと、参考文献の前に表示します[1)]。註番号は、このように句読点の前に入れます。註一覧は、MS明朝11ポイントとし、ぶら下げ機能を使って全角1文字分ぶら下げとします。

4. 結論

このテンプレートでは、Human Linguistics Reviewの投稿論文のフォーマットを説明しました。このファイルにそのまま中身を流し込めばフォーマット通りになるはずですが、互換性によってはうまく行かないこともあります。

コピー&ペーストした場合、元のフォーマットがここでも残ってしまう場合もあるかもしれませんので、このテンプレートのなかのそれぞれの箇所の記載をよく確認し、その通りになるように作成してください。その他、不明な点がありましたら、HLC機関誌編集委員会までお問い合わせください。

付記

本稿は、Human Linguistics Reviewの投稿論文のテンプレートであり、作成にあたってはHLC機関誌編集委員会のみなさまから貴重なご意見をいただいた。

註

1) 註の番号は片括弧を用い、アラビア数字1、2、3等とする。2行以上にわたる場合は、ぶら下げ1文字とする。

参考文献

Brown, P., & Levinson, S. C. (1987 [1978]). *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge, MA: Cambridge University Press.

Goffman, E. (1981). *Forms of talk*. Philadelphia, PA: University of Pennsylvania Press.

Halliday, M.A.K., & Matthiessen, C. (2004). *An introduction to functional grammar* (3rd ed.). London: Arnold.

柏崎秀子（1993）.「話しかけ行動の談話分析：依頼・要求表現の実際を中心に」『日本語教育』第79号，53-63頁，日本語教育学会.
Kaufman, J. M., & Burbach, H. J. (1988). Creating classroom civility. *Education Digest*, *63*(1), 12-18.
国立国語研究所（1960）.『話しことばの文型1：対話資料による研究』秀英出版.
Lyons, J. (1977). *Semantics* (2nd ed.). Cambridge, MA: Cambridge University Press.
ポリー・ザトラウスキー（1993）.『日本語の談話の構造分析：勧誘のストラテジーの考察』くろしお出版.
Vološinov, V. N. (1973 [1929]). *Marxism and the philosophy of language*. Cambridge, MA: Harvard University Press.